

第2回安全・安心推進会議の意見・要望

○行動計画の効果検証について（1・2 ページ）

委員	意見・要望	対応	関連事業
北九州 商工会議所	大事なものは、毎年見直しをすること。Plan・Do・Check・Actionで、その1年目を反省してみて、悪い点に対して、何が悪かったかということを改善しながらやっていくということが大事。	2 ページ「5 効果検証」に、 「 <u>計画(Plan)→ 実行(Do)→ 評価(Check)→ 改善(Action)</u> 」のPDCAサイクルに沿って行い、 <u>毎年度事業の見直しを行う</u> 」の文章を追加。	—

○行動計画の目標について（10・11 ページ）

九州国際大 山本教授	刑法犯の認知件数を減らすことを考えていくと、短期的な施策も大事。自転車盗を減らしていくことが大事。プラス効果の出やすい、数の下がりやすいところも同時並行でやっていくのも1つの方法ではないか。	10 ページ「目標①」に、 「 <u>今後は、特に件数の多い罪種に焦点を当てた取り組みなどにより</u> 」の文章を追加。 21 ページ 「安全・安心条例行動計画推進事業」で、自転車盗等に焦点を当てた取り組みを行う。	21 ページ 安全・安心条例 行動計画推進 事業
	体感治安を左右するのは身近な犯罪。その原因として挙げられているのが、地域のつながりが弱くなっていること。 特に若い人や、北九州在住の浅い人たちが、この地域のつながりと結びついていくことによって、体感治安が改善していくのではないか。	11 ページ「目標③」に、 「 <u>市民等が行う安全・安心まちづくりに関する取り組みや情報発信、若者や事業者などの安全・安心に関する活動への参加促進等を通じて</u> 」の文章を追加。	23 ページ 市民一斉夜間の安全・安心パトロール事業
P T A 協議会	人口 100 万人を切った中、「1 万人を 2 万人に」は、お題目だけになってしまう可能性がある。	11 ページ「目標②」に、 「 <u>若者や事業者などより多くの方に対して参加の働きかけを行うなどして</u> 」の文章を追加。	

○安全・安心に関する意識の高揚（13 ページ）

委員	意見・要望	対応	関連事業
九州国際大 山本教授	知識を増やすということも並行してやってほしい。市民意識の高揚と、防犯知識の向上がやはり大事なところだと思う。	9 ページ「(2) 地域活動参加者の固定化・高齢化」に、「 <u>安全・安心に関する意識の高揚に加え、安全・安心に関する知識の向上を図ることが必要である</u> 」の文章を追加。 13 ページ「安全・安心に関する意識の高揚」に、「 <u>知識の向上</u> 」の文言を追加。	21 ページ 子どもや女性の犯罪被害防止対策

○安全・安心なまちづくりの新たな担い手の育成（13 ページ）

少年補導委員連絡協議会・青少年育成協議会	市としても、安全・安心なまちづくりのために、後継者の育成に少し力を入れてほしい。	9 ページ「(2) 地域活動参加者の固定化・高齢化」に、「 <u>若者をはじめ、これまで自治会など地域団体や地域活動との関わりが薄い者に対して参加の働きかけを行うなど、新たな担い手づくりが必要である</u> 」の文章を追加。	22 ページ 学生安全・安心ボランティア活動の推進 23 ページ 市民一斉夜間の安全・安心パトロール事業
北九州市立大学	大学生が活動できる機会を増やす、大学生同士で意見を交流する場ができるといい。		
福岡県防犯設備士協会	ボランティアの参加証明書があれば就職のときにアピールできるのでは。		
九州国際大 山本教授	環境美化に関しても企業の従業員がどう参加していくか、新たなつながりを作っていくべき。	11 ページ「目標②」に、「 <u>若者や事業者などより多くの方に対して参加の働きかけを行うなどして</u> 」の文章を追加。	22 ページ 事業者の新たな防犯活動の推進
アヴァンティ金支社長	事業者をどのように取り込めるかが課題。会社が安全に対して活動することの周知が必要。		
	働く女性のロコミ力をうまく使えば、新しい担い手になる。	21 ページ 「子どもや女性の犯罪被害防止対策」で、働く女性や女子大生等を「女性の安全ナビゲーター」に任命し、防犯知識を学び、女性目線で犯罪被害防止についての情報を発信する事業を行う。	21 ページ 子どもや女性の犯罪被害防止対策

○地域活動の推進（14 ページ）

委員	意見・要望	対応	関連事業
九州国際大 山本教授	1 人暮らしをしている大学生が、自治会・町内会に入っていくような仕組みはできないか。	9 ページ「(2) 地域活動参加者の固定化・高齢化」に、「 <u>若者をはじめ、これまで自治会など地域団体や地域活動との関わりが薄い者に対して参加の働きかけを行うなど、新たな担い手づくりが必要である。</u> 」の文章を追加。	22 ページ 学生安全・安心ボランティア活動の推進 23 ページ 市民一斉夜間の安全・安心パトロール事業
連合協力 雇用主会	自治会組織の加入の問題点が改善できるような提案ができればいい。		

○青少年の非行等を生まない環境の構築（15 ページ）

P T A 協議会	道徳倫理といった教育が重要。再犯防止ともう1つの両輪として、そういう人を生まないまちづくりというのが、若干欠けているように思う。	15 ページ「青少年の非行等を生まない環境の構築」に、「 <u>道徳教育などによる</u> 」の文言を追加。	24 ページ 北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業、非行防止活動の推進
	子育て世代の親をいかに巻き込んでいくかという指針が少し弱いと思う。	21 ページ 「子どもや女性の犯罪被害防止対策」で、子どもを見守る家族の防犯知識を高めるための「親と子どもの安全セミナー」等を実施する。	21 ページ 子どもや女性の犯罪被害防止対策、 22 ページ 事業者の新たな防犯活動の推進
少年補導委員連絡協議会・青少年育成協議会	保護者にモラルや学業の問題を聞いてもらい、非行を生まない活動を成功させたい。	9 ページ「(3) 青少年の非行等からの立直り支援」に、「 <u>地域・家庭・学校・事業者など、非行防止や立直りを支援する社会の形成が必要である</u> 」の文章を追加。	22 ページ 学生安全・安心ボランティア活動の推進
九州国際大 山本教授	学力不振、成績不振と非行というのは、かなり関わるものなので、勉強の面白さ、学校の面白さを、子どもたち自身が実感していくことも大事。 非行の問題と大学生の活動の問題をくっつけられないか。大学生が子どもに勉強を教えてあげるなど、地域と大学をつなげていく余地が山のようにある。		

○安全・安心に配慮した環境の整備（15 ページ）

委員	意見・要望	対応	関連事業
福岡県防犯設備士協会	防犯灯で1戸1灯運動というのがある。同じように、カメラの付いている所には1台増設をするということを推進していったらどうか。	15 ページ「安全・安心に配慮した環境の構築」に、「 <u>市民等にも、防犯カメラなど安全・安心に配慮した環境整備の浸透を図る</u> 」と記載。	24 ページ 防犯カメラの普及促進に向けた取り組みの推進

○通学路等の安全確保（15 ページ）

P T A 協議会	見守り隊等人手が足りないのであれば、予算を掛けてハード面を、どんどん推進してほしい。	15 ページ「通学路等の安全確保」に、「 <u>『文』マークの表示や防犯灯、歩道の整備、交差点改良等により、通学路の安全対策を推進する</u> 」と記載。	25 ページ 通学路における夜間の安全対策強化、通学路の安全対策の推進
--------------	--	---	--

○非行等からの立直り支援の推進（16 ページ）

連合協力雇用主会	協力雇用事業所を増やすということと、地域の方の理解を得るということを、この中でぜひお願いしたい。	9 ページ「(3) 青少年の非行等からの立直り支援」に、「 <u>地域・家庭・学校・事業者など、非行防止や立直りを支援する社会の形成が必要である</u> 」の文章を追加。	22 ページ 事業者の新たな防犯活動の推進
----------	--	---	--------------------------